

2023年7月

■今月の特選句



地下出口自首するやうに炎昼へ

峰崎成規

地下道から地下道へ、たとえ遠回りになっても陽射しを逃れて涼しい道を選んで来たが、とうとう地上に出ねばならぬ。観念、覚悟をするか。



意の儘にジルバにルンバ水馬

西野周次

水馬が水面で軽やかにルンバやジルバを踊る風景は楽しい。長い脚がこんがらがったりせぬかと心配するは余計なお世話だ。俳句は脳味噌の遊び。

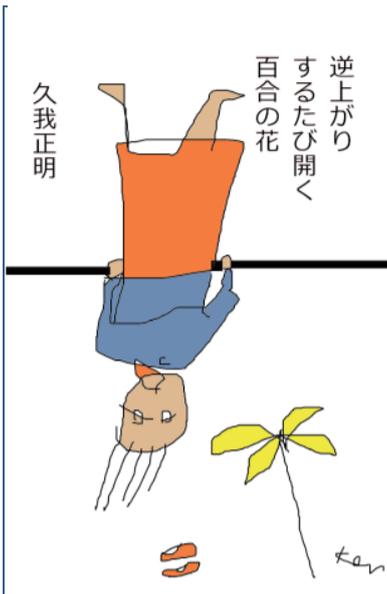


薫風はギザギザワニの歯駆抜けて

上山美穂

この薫風はなんだかギザギザに吹いてくる。これはワニの歯を駆抜けたからに違いない。ひと飲みにもされそうな吹き方は、カバの口からの風だね。

■今月の特選句



逆上がりするたび開く百合の花

久我正明

百合の花が開くのと、遠い記憶の中のスカートの女の子が逆上がりする風景とが、作者の中で繋がった。因果関係を断定したことで面白くなった。



父の日の自販機やさしき言葉して

高田敏男

家電のみならず自販機のおしゃべりも進化している。挨拶は当然ながら、時間帯や季節、歳時に対応している自販機も。人間より気が利いている。



他所の庭に生えてれば好き夏の草

南とんぼ

生命力に満ちた夏草は、俳人にとって絶好の句材。しかし、それが何処に生えているかが問題。お隣の草は素晴らしい。しっかり育ててもらいたいわ。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

クレヨンの水色五月晴を描く ・・・次はお日様赤のクレヨン	永易しのぶ
新緑はうまい腹の足しにはならないが ・・・やはらかなればサラダがはりに	鈴木和枝
歩きだす心に春のシャツ着せて ・・・シャツを選ぶに色の色色	吉川正紀子
上野には上野の青葉若葉かな ・・・西郷さんも自分勝手に	山本 賜
父直球母は涼しく変化球 ・・・父母の球筋見極める子ら	柳 紅生
憲法と子に挟まるるみどりかな ・・・祝日ばかり増えて迷惑	赤瀬川至安
夕立の散弾銃を楽しめる ・・・こうもり傘に数多の穴が	桑田愛子
ありがとう山の日の山海の日の海 ・・・ありがたくない父の日の父	金城正則
空梅雨の空に在庫の水は無し ・・・天のお粗末在庫の管理	稲葉純子
鼻歌の出る血圧値夏の朝 ・・・血糖値にはため息の出て	田村米生
五月晴東京タワー見得を切る ・・・スカイツリーに負けてたまるか	土屋泰山
小さき字に読めぬ品書き夏料理 ・・・老眼鏡のお世話になるか	月城花風
争はず源平蚩乱舞して ・・・熱を持たない平和の光	長井知則

■今月の滑稽句

* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

緑蔭に遊ぶや妖精に誘はれて	相原共良
哇漆の名人まっこと漆師(ぬし)の如	相原共良
傷兵の蟻引き連れて蟻戻る	相原共良
風向きはどうあれ柳は気にしない	青木輝子
耳寄りな話ぞろぞろ蟻の群れ	青木輝子
仮結びしときやよかった蟻地獄	青木輝子
花冷やエレキバン貼る接骨医	赤瀬川至安
ふらつく夏これは薬のせいぢやない	赤瀬川至安
ぐずりだしたる梅雨入の洗濯機	井口夏子
紫陽花を伐れば一つの穴残る	井口夏子
サングラス掛けてるあいつはアル・カポネ	井口夏子
豊満の脂肪は脱げず夏来たる	池田亮二
春ファッション百円ショップの品揃え	池田亮二
母の日の三者三様プレゼント	石塚柚彩
東京の垢抜けし声夏鶯	石塚柚彩
散歩径蛇に出くはす蛇嫌ひ	石塚柚彩
竹島へ徒歩渡りせむ潮干狩	伊藤浩睦
鯉幟始末に困り川に吊る	伊藤浩睦
聖五月マスクなければ爺の顔	伊藤浩睦
亀鳴くや質問ばかりする子ども	稲沢進一
尺蠖のかすかな前進ふと後退	稲沢進一
十薬や人を信じて疑はず	稲沢進一
かき氷食べてまつ赤な嘘つけず	稲葉純子
虹は半円縄跳びは二重丸	稲葉純子
描く眉毛左右揃わずサングラス	井野ひろみ
紫陽花寺拝観無料寄付の箱	井野ひろみ
動物園でおにぎりころころ山笑ふ	上山美穂
自転車をごぐや鱗雲つれて	上山美穂
雷(いかずち)や家路を急ぐ鴉二羽	梅野光子
白シャツの干されて白し梅雨晴間	梅野光子
荒梅雨に着替え届けてくれし友	梅野光子
サマータイム胃袋だけは素直なり	遠藤真太郎
佐渡情話唸つてゐるかに海月ゆれ	遠藤真太郎
ハマナスの花がアピール厚情感	遠藤真太郎
夏草のまさに今マイペース中	大林和代
木道に交通ルール花菖蒲	大林和代
更衣いまだにマスク着用中	大林和代
そら豆が収穫せよと下を向く	小笠原満喜恵
もくもくと入道雲の出番かな	小笠原満喜恵
カルストの青草牛の群れが喰む	小笠原満喜恵

水飯の水多すぎてべちやべちやに	加藤潤子
揚げ茄子も屋台の壁も飴の色	加藤潤子
蝮(まむし)酒鼻がとぐろを巻きさうな	加藤潤子
老人の目立つ内科や梅雨の候	門屋 定
今朝の雨少し伸びたる胡瓜かな	門屋 定
歌にある百万本の薔薇見たい	門屋 定
雪女郎三日前とは別の女(ひと)	北熊紀生
虹の出で鰯夫(やもお)の弁当鮮かに	北熊紀生
編笠は今の生活には不要	木村 浩
川釣りの漁師編み笠良く似合ふ	木村 浩
編み上げて作ると知らず編笠は	木村 浩
椿三十郎椿の花好き	金城正則
七十二年の命燃やすや若葉風	金城正則
夏の海心中するにはもったいない	久我正明
不老不死薬飲んで卵の花腐し	久我正明
電線は鳥の止まり木電波の日	工藤泰子
気象の日ニュートン・パスカル・ミリバール	工藤泰子
塹壕戦蚯蚓出てきて終りけり	工藤泰子
急カーブさえ楽しくてソーダ水	桑田愛子
名を知らぬ日傘同士の会釈かな	桑田愛子
南蛇井(なんじゃい)駅翁草咲き鳥交る	壽命秀次
薫風や禿頭産毛撫であげる	壽命秀次
禅寺の裸足タッタと雑巾掛	壽命秀次
子の部屋の主は我ぞと守宮鳴く	白井道義
てほどの母も卒寿や粽結ふ	白井道義
別腹と言ふて三個目柏餅	白井道義
初夏の小雨決行大清掃	鈴鹿洋子
海越えて神父アンネの薔薇を継ぐ	鈴鹿洋子
入梅や太陽パネルに打ちつける	鈴鹿洋子
すったもんだで六月居座り雨ふらす	鈴木和枝
ハトせつせと拾うサミット後のくず	鈴木和枝
爺ちゃんの紙魚食ひ残しの通信簿	高須賀溪山
親よりも老舗に通ふ燕の子	高須賀溪山
新緑や草をはむ牛寝そべる子	高須賀溪山
リストラや毎日使ひハンモック	高田敏男
ネクタイが首をしめてる極暑かな	高田敏男
真相は裏側にあり半夏生	竹下和宏
バナナ喰ふ裏も表もなき人と	竹下和宏
よくもまあ三代続く祭馬鹿	竹下和宏

一望に町を収めて鯉幟	田中 勇
若葉風自分さがしの旅に出る	田中 勇
意志あれば才能でるや若葉風	田中 勇
寄り道はたのしきことよガマガエル	谷本 宴
大好きなプリンも愁ふ梅雨の入	谷本 宴
うすものや我は通年ダイエット	谷本 宴
ヘルメット被り散歩の爺の夏	田村米生
金魚にも一声かけて外出す	田村米生
ぴつたりと閉ぢぬ網戸や密談中	月城花風
六月や傘持つだけの晴れ女	月城花風
御器ぶりの逃げ足世界陸上にエントリー	土屋泰山
入梅入りと千葉の人言う不思議	土屋泰山
太巻の人生感謝夏始	堤 宏文
梅雨に入る夢のかけらをにぎりしめ	堤 宏文
爺さんの余命さしてる時計草	堤 宏文
梅雨晴間心はずませをりにけり	坪田節子
寒い春よくがんばったねスマレちゃん	坪田節子
柿の花これぞ可憐といふべきや	坪田節子
夏柑の実は花に老い語りかけ	長井知則
十葉の八重の白花空威張り	長井知則
六月の土の湿りの草をひく	永易しのぶ
梅雨晴に羅鑑は手に持つ書をさらす	永易しのぶ
味方には到底見えぬサングラス	西野周次
鷺草の今に飛びさう踊りさう	西野周次
しかめっ面悩み多きか梅雨の空	花岡直樹
好きな子の風下が好き扇風機	花岡直樹
季節ごとビールの注ぎ方変えてみる	花岡直樹
これほどの棚要るのかな瓢苗	浜田イツミ
二億五千万年前にルーツのゴキカブリ	浜田イツミ
すつぽんや蚯蚓を餌に釣られみる	浜田イツミ
オーレオーレーマツケンサンバ夏盛む	久松久子
夏瘦は昔のことよ夏ぶとり	久松久子
丸い背中ポンと叩かれ踊らうよ	久松久子
十葉の抗議プラカードの白かかげ	日根野聖子
紫陽花も地球も丸し水滴も	日根野聖子
まひまひはあわてふためくのが特技	日根野聖子
蟻地獄人も落ち入る深き闇	細川岩男
世を知らぬ蛆虫共の悪足掻き	細川岩男
炎天下被る義務化のヘルメット	細川岩男

薔薇園の散歩二時間囀と
 子どもの日なんで大人の日はないの
 流行を馬鹿にしてみて更衣
 恥ぢらいの失せし新緑山の神
 雑草の個性かがやく五月かな
 甚平はちよいと余所行き客を待つ
 くずし字の画賛を紙魚がなほ崩し
 駆け出しに負けじと老鶯ナンパして
 赤信号無視して仔猫の毛づくろひ
 水鉄砲孫ウクライナ我露国
 二進も行かず三進も行かぬ蝸牛
 恐山やませのべろに包まれて
 亀鳴くはどんな声かとAIに
 茶々入れる春告鳥の天賦かな
 青青と虫を育くむ春キャベツ
 メロン食ぶ皺の高きをよしとして
 青梅にうぶげのありて乙女顔
 口ばくは暇な金魚の暇つぶし
 日焼の訳は日焼の肌が知つてゐる
 見えねども夏の季語感紫外線
 切れ味がたちまち捌く初鯉
 緑蔭のマイナス表現木下闇
 犯人の足取り追えず根切虫
 この先は三途の川や梅雨出水
 庭師来て構想語り竹植える
 蠅叩く食卓仕切り直しして
 鰻焼く産地はたらい回しして
 庭仕事皺の奥まで日焼止
 夏菊や蕾ばかりを三鉢買う
 パクパクとはしたくない所作せぬ金魚
 二の腕が自己主張して夏きざす
 令和五年ジップロックで辣蕪漬
 漬物の胡瓜「し」や「へ」や「く」や「つ」の字
 紫陽花が薄く色づく涙雨
 どしゃぶりで目覚める朝や風あざみ
 夏の恋万有引力引き寄せて
 瘦蛙なれど集いてにぎやかに
 平年並みに収まりきらず梅雨豪雨
 梅雨入に台風に豪雨の三重苦

ほりもとちか
 ほりもとちか
 ほりもとちか
 南とんぼ
 南とんぼ
 峰崎成規
 峰崎成規
 明神正道
 明神正道
 明神正道
 椋本望生
 椋本望生
 椋本望生
 村松道夫
 村松道夫
 村松道夫
 森岡香代子
 森岡香代子
 森岡香代子
 八木 健
 八木健
 八木健
 八塚一青
 八塚一青
 八塚一青
 柳 紅生
 柳 紅生
 柳村光寛
 柳村光寛
 柳村光寛
 山内 更
 山内 更
 山内 更
 山岡純子
 山岡純子
 山岡純子
 山下正純
 山下正純
 山下正純

目には青葉バッグにマチスの予約券

広場では「さつき祭」のテント張る

父の日や倍返し待つプレゼント

ふり向きて何か言いたげとかげの子

世の中をモノトーンにするサングラス

襟足になにかささやき初夏の風

蓮華の盛り休耕田に野良生えの

朝採れの野菜に蛞蝓糞連らね

薄紫花棟(おうち)から吹く風は

静脈の浮き出る脚のあっぱっぱ

かはいいと蜥蜴を抓(つま)むもみぢ手よ

莢も炊き香りほほぼる豆の飯

新緑や喜寿にも喜寿の底力

山本 賜

山本 賜

横山洋子

横山洋子

横山洋子

吉川正紀子

吉川正紀子

渡部美香

渡部美香

渡部美香

和田のり子

和田のり子

和田のり子